Ⅰ　実践

1　研究主題

「互いに認め合い，励まし合い，助け合うことのできる児童の育成」

（1）主題設定の理由

本校は，「ふるさと山部を愛し　心豊かに　たくましく生きる山部っ子の育成　ーかしこく，なかよく，たくましくー」を学校教育目標としている。児童の半数近くは，祖父母と同じ敷地に居を構え，祖父母と関わりをもつ機会が多い。祖父母との関係などから，地域の人と交流をもつこともある。児童は明るく素直で，高学年の児童が低学年の児童の面倒をよく見ている。しかし，少人数のため，集団生活の中では，自己中心的な言葉や行動をとってしまう児童もいる。また，本校は，複式学級２クラスを含めた４クラス編成でクラス替えもないため，友人関係が崩れてしまうとなかなか修復が難しい。小学校を卒業後は人数の多い中学校へ進学することを考えると，集団の中で，思いやりの心をもってなかよく生活できる児童の育成が必要である。

そこで，学校の教育活動全般の体験や交流を通して，本校のめざす児童像である「明るく，思いやりのある子ー互いに認め合い，励まし合い，助け合う子ー」の育成を目指して本主題を設定した。

（2）研究の内容

ア　特別活動，道徳，総合的な学習の時間を中心とした全教育活動における人権教育の充実

イ　異学年との交流活動

ウ　豊かな体験活動の展開

2　実践内容

（1）特別活動，道徳，総合的な学習の時間を中心とした全教育活動における人権教育の充実

ア　人権教育を取り入れた道徳授業の展開

道徳授業の中で，人権教育にかかわる内容を取り上げ，授業参観で公開した。保護者や地域の方が来校しやすいときに行い，人権教育の啓発に努めた。両親が来校し，授業参観している家庭もあり，効果的だった。

イ　総合的な学習の時間の実践

・点字を学習して，盲学校の児童に点字で手紙を書き，障害のある人の気持ちに寄り添うことができた。（４・５年）

・メディア教室（スマートフォン利用についての注意点）を行い，情報モラル教育の充実を図った。（５・６年）

ウ　児童集会（ハートフル集会）

運営委員会の児童が中心となって，いじめを防止する意識を高めるための集会を行った。児童にとったいじめに関するアンケート集計結果を発表し，人権教育視聴覚教材「プレゼント」（DVD）を全校児童で視聴した。そして，学級ごとに話し合ったいじめ防止の標語を発表した。児童からは「小さなことからいじめになることがわかった」「いじめを止めないで見ているのもいじめになることがわかった」など，いじめを自分の身の回りでも起こりうることとしてとらえる感想が聞かれた。

ハートフル集会

（2）異学年との交流活動

ア　たてわり班活動

児童を４つのたてわり班に分け，年間を通して様々な集団活動に取り組むことによって，異学年児童相互の親睦を深め，他者への思いやりや助け合う心を養うことを目指した。

（ア）ドッジボール大会

異学年集団で活動することにより，互いに協力し合い，仲よくしようとする気持ちを育ててきた。上級生は，下級生もゲームが楽しめるようにボールを回したり優しく投げたりと，相手を思いやる優しい行動が見られた。

ドッジボール大会

（イ）愛校活動

たてわり班ごとに，週１回特別教室を清掃している。上級生が，下級生の面倒をみながら自分たちの学校をきれいにすることができた。

（ウ）山部ふれあい運動会

綱引きやリレー，玉入れなどたてわり班対抗の種目があり，班長が中心になって練習し，取り組んだ。班のために頑張ったのはもちろんであるが，「班の仲間が自分の分も頑張ってくれた」と思いやりに対する感謝の気持ちをもつことができた。

愛校活動

イ　なかよし給食

年三回の実施を通して，たてわり班や他の学年の児童，担任外の先生との親睦を図り，食事のマナーも教え合うことができた。一緒に食べるメンバーや場所がいつもとちがうので，会話が弾み，楽しく会食することができた。上学年の児童が下学年の児童の給食や机を運び，それ に感謝する姿が見られた。

（３）豊かな体験活動の展開

ア　山部ふれあい運動会

来賓・敬老玉手箱で，地域の高齢者や招待した施設の高齢者に，鉢花を児童が書いた手紙を添えて，プレゼントした。一人一人に手渡すことで，来校した高齢者と交流を図ることができた。話をしたり誘導したりするなど，高齢者に対する気配りが見られた。

イ　やまびこフェスティバル［三世代交流］

保護者・地域の方々と交流を深め，お手玉，けん玉，輪投げ，折り紙，こま，カルタを体験した。幼児から高齢者までいろいろな年代の人と触れ合う楽しさや素晴らしさを感じることができた。ふれあいタイムで用意されたコーナーは昔あそびだったので，高齢者の方々も昔を懐かしみながら，とても楽しそうに子どもたちと一緒に遊ぶ姿がみられた。

ウ　いのちの教室（４年）

助産師さんによる「いのちの大切さ」についての話や母親から自分が生まれたときの話を聞いた。自分が大切な存在だということや自分以外の人も大切にしようという心を育てることができた。

なかよし給食

山部ふれあい運動会

やまびこフェスティバル

３　成果

（１）道徳教育を通して，自分の生活を振り返り，自分自身や友だちについて考える児童が増えている。

（２）異学年集団の活動を通して，助け合い，励まし合う心や態度が見られ，高学年の児童が低学年の児童を思いやる心が育ってきている。

（３）様々な体験活動を通して，高齢者を始め，いろいろな人とふれ合うことができた。そのことによって，相手を思いやる心や命の大切さなどを学ぶことができた。

Ⅱ　今後の課題

教師の人権教育に関する理解と認識を高めるための研修を充実させ，家庭や地域の方々との連携の仕方や人権コーナーの内容の工夫を通して，より人権教育の啓発に取り組んでいけるようにしていきたい。

Ⅲ　人権コーナー設置の様子

人権メッセージを掲示し，啓発を図っている。

人権コーナー